

せいけん  
詩集

第十二篇

作：近藤せいけん

## 「波動」

色んな生き物が動いている

それぞれの命の軌跡を描きながら

その中で 人科人間ほど

複雑な生き方をしているものはない

何故だろう

他の種は 実にシンプルに明解だ

鳥類は空を飛び ライオンはライオンらしく

熊は熊らしく 猿は猿らしく

それぞれの軌跡を描きながら

生きている

波動を発している

もしかして この広い宇宙に

人科人間を観察している

生き物がいたら 何と言うだろう

おそらく こう言うだろう

「なんて 君たちは複雑なんだ

疲れないのか それで」

「シンプルのが楽だよ」

「君の星は大丈夫か」と

人生賛歌  
じんせいさんか

いろんな夢  
いろうんな ゆめ

すばらしい感動  
すばらしい かんどう

生きることは喜び  
いきることは よろこ

家族への愛  
かぞへへの あい

君はいろんなことが  
きみは いろうんなことが

出来るんだ  
でき 出来るんだ

君のその手で  
きみの そのて

つかんでみたら どう  
つかんでみたら どう

君はふるさとに  
きみは ふるさとに

何時 帰った  
いづれ かえ

かえつてみたら どう  
かえつてみたら どう

青々とした山  
あおあおとした やま

キラキラと輝きながら 流れる川  
かがやきと かがやきながら なが

田んぼをわたる 優しい風  
たのぼをわたる やさしい かぜ

故郷の やすらぎ  
ふるさと

家族への 愛  
かぞへへの あい

生きることは 喜び  
いきることは よろこ

「交互こうごに やつて来るく」

人生じんせいにはいい事ことと 悪い事わるいことが

交互こうごに やつて来るく

今いま 悪い事わるいことに出会であっていたら

次つぎは いい事いいことがめぐってくる

もう少しすこしで いい方向ほうこうに変わるよ

「ほら、変かわり始はじめたじゃないか 君きみ」

「君きみの微笑ほほえみが いい事いいことを連つれてくる 合あ図いずさ」

「本ほん当とうさ 信しんじてみたら」



## 七月の風しちがつ かぜ

田んほの上うえを 七月しちがつの風かぜが 吹きぬける

緑みどりのじゅうたんが 風かぜにそよぐ

青あおいささなみが つづく

二匹にひきのカルガモが 稲穂いなほの波なみから

首くびを出だして あたりを見みまわす

また 緑みどりのじゅうたんなかの中に 沈しずむ

今年ことしの夏なつは 暑あつくなりそう

大山おおやまの見みえる 三田さんだの田んほあさの朝

七月しちがつの優やさしい風かぜが 朝あさつゆの稲穂いなほを 揺ゆらす

気持きもちのよい 初夏しよかの風かぜ

空そらには大おおきな 白しろい雲くも

相模川さがみがわの方ほうに 流ながれている

いつもと変かわらない 風景ふうけい

変かわらない自然しぜんに やすらぎ感かんじ

七月しちがつの風かぜは ゆく